

音京 (otomachi)

—音楽でつながるコミュニティの提案—

川戸 裕紀子

[指導教員: 武庫川女子大学教授 三好 庸隆]

1. 設計の背景

以前、YouTubeのストリートピアノ動画で、音楽を中心として多くの人々が集い、その輪が広がっている動画を見た。これは、地域全体に広がっていくように感じたことから、音楽は人と人を繋ぎ、心の距離を一瞬で縮めるコミュニティツールではないかと考える。そして、この力は現在のまちづくりの課題解決に大きく影響するのではないかと考え、音楽の力を利用した場の提案を行う。

2. 設計の目的

現在、全国多くの地域で深刻さが増している共通の問題である、地域コミュニティの衰退。この問題の改善や解決のため、音楽の取り組みを通して繰り返される、人と人のコミュニケーションの集積がコミュニティをつくれるような提案を目指す。そして、「人と繋がる・街と繋がる・音楽と繋がる」のような様々な繋がりを、京都岡崎に提案をする。

3. 計画地について

京都市左京区の人口は約168,266人で、世帯数は83,423世帯、面積は246.77㎏となっている。(国勢調査/2015年)計画地は岡崎地区の西側に位置し、敷地面積は、約11,000㎡である。周辺にはロームシアター京都、京セラ美術館が集積する。

岡崎地区では、2011(平成23)年に「岡崎地域活性化ビジョン」が策定された。このビジョンでは、岡崎のコアゾーンと周辺資源を対象に、その結び付きを強めることで、京都を牽引する更なる魅力的な地域を目指し、検討が行われたものである。

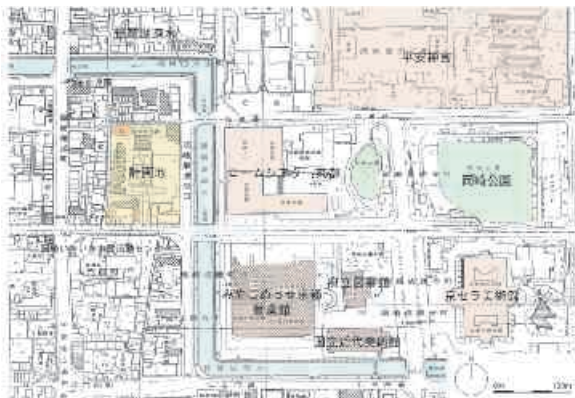


図1 計画地周辺地図

3-1現状と課題

京都は、国際交流・文化観光都市としての顔を持つ地域

キーワード：地域コミュニティ，音楽活動，京都岡崎

で、岡崎地区では、国内外から年間、500万人を超える人々が訪れる、文化交流施設が集積するシンボリックな地域である。一方で、地域の人々にとっては生活の場としての顔を持つ。今後、展開される取り組みに良い連携が取れるよう、進められているが、下記のような問題が顕在化している。

(1)人口減少

2005(平成17)年は、169,587人・2015(平成27)年は、168,266人と減少している。

(2)高齢化

地縁組織の高齢化や一人暮らしの高齢者が増加。

(3)担い手不足

地縁組織担い手の停滞により、弱体化。

(4)繋がりの希薄化

共働きやマンション建設の増加による希薄化。

3-2計画地の選定

岡崎地区は文化的蓄積がある地域で、時代祭や京都学生祭典の他、各施設ではコンサートや展覧会など文化芸術と触れ合う機会が多い地域だ。

岡崎地域活性化ビジョンでも音楽(文化芸術)の活性化が図られており、実際に、京都会館がロームシアター京都として生まれ変わった。また、この地域には「岡崎いきいき市民活動センター」があり、音楽を通して、地域の課題解決に取り組む動きがある。私は、このような動きを受け、地域住民が身近に音楽に親しむ機会をより充実させ、交流の場となる事を目的とし、音楽を利用した地域コミュニティの内容を含むエリアを計画する。

4. 設計について

音楽を通し「人と繋がる・街と繋がる・音楽と繋がる」ことに着目し、京都岡崎の街の広場となることを目指す。

4-1設計コンセプト

(1)街のスケールに馴染む

計画地東側には琵琶湖疎水が流れており、近隣にはロームシアター京都がある。また、北面と西面には隣接して住宅地が広がるため、周辺住宅に合わせた幾つかのヴォリュームの集合で計画する。

(2)緑のネットワーク

周辺には、たくさんの緑が残っているため、その豊かな環境と混じり合うように、積極的に緑化する。

(3) 街の趣を残す

今の区画や建物を残しながら計画する。建物は、岡崎いきいき市民活動センターと岡崎幼稚園を残す。

(4) 地域で活躍する

集合住宅の住人は、音楽に興味を持ち、学ぼうとする人でコミュニティでの活動を通し、地域の魅力を発見する。その結果、退居後も地域で活躍する人材となる。

(5) ハコに閉じこもらない使い方

専門的な音楽の音の場では、大きなガラスのハコの中に小さなカラフルなハコを散りばめることで、中のアクティビティを可視化する。角度により様々な居場所ができ、活動を垣間見ることによって視覚的に音楽活動を見ることができる。そして、交流のきっかけが増える。

4-2 カラーコンセプト

京都の街並みに合う、落ち着いた色で統一する。

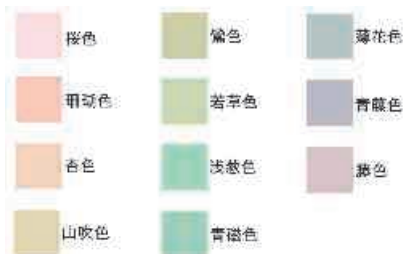


図2 カラーコンセプト

4-3 施設構成図

4つのゾーンから異なる音がきこえる構成とする。

(1) 生活の音の場

集合住宅から家事や家電製品の音、話し声がきこえる。

(2) まちの音の場

音楽を活用し、地域コミュニティの活性化に取り組む市民センターを中心に人と人の交流の音がきこえる。

(3) 専門的な音楽の音の場

集合住宅に住む住民が音楽を学び、また地域の人々が気軽に音楽に親しむ専門的な音楽がきこえる。

(4) 自然の音の場

東側に流れる琵琶湖疎水の流れや波の音といった自然が作り出す音がきこえる。

参考文献

- ・ 岡崎地域活性化ビジョン
<https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/cmsfiles/contents/0000100/100658/okazaki-vision.pdf> (2020/9/10)
- ・ 岡崎いきいき市民活動センターホームページ
<https://www.okazaki-iki-iki.org/> (2020/9/10)
- ・ 総務省統計局国勢調査
<http://www.pref.kyoto.jp/t-ptl/tname/k076.html> (2020/10/8)
- ・ 京都市左京区役所ホームページ
<https://www.city.kyoto.lg.jp/sakyo/> (2020/10/2)



図3 1階平面図



図4 冷泉通りから計画地を見る